

令和元年度 事業報告書



目 次

重点事業報告について	1
Ⅰ 法人運営部門	
1.法人運営事業	1
Ⅱ 事業部門	
1. 在宅福祉・地域福祉事業	2
2. 地域ボランティア活動の充実・福祉教育の推進	6
3. 生活支援体制整備事業	9
4. 福祉活動を支えるための取り組み	10
5. 社会福祉協議会活動普及の取り組み	12
6. 職員体制及び職員研修	13
Ⅲ 経営部門	
1. 介護サービス事業(介護保険法)	16
2. 障がい福祉サービス事業(障害者総合支援法)	23

令和元年度 社会福祉法人埴町社会福祉協議会 事業報告書

重点事業報告について

埴町の地域に住む人々が、明るく、安心して、その人らしい生活を営むことができるように「みんなが考え、参加し、支え合い、共につくる福祉社会」の実現を念頭に、令和元年度は介護予防事業を充実し、住民が自分らしく生活できるよう事業を展開しました。

法人運営事業としては、地域福祉事業、ボランティアセンター事業、心配ごと相談事業等を柱に、深刻な生活課題や社会的な孤立などの課題に気づき、受け止め、相談・支援や解決につなげ、誰もが安心して暮らせる地域に根差した福祉の町づくりに取り組みました。

経営活動は、介護保険制度による5つの事業所と障害者総合支援法による1事業所の、合わせて6事業所を運営し、最適なサービスを利用者に提供すべく、利用者とその家族の意向に添ったより良いサービスの提供に努めてまいりました。

I 法人運営部門

1. 法人運営事業

社会福祉協議会は、民間での社会福祉活動の推進を目的として、社会福祉法に基づいて設置される非営利の民間組織です。

皆様からの社会福祉協議会会費や町からの補助金及び募金配分金等が財源となり、様々な場面で地域福祉の増進に取り組んでいます。

埴町社会福祉協議会では、この福祉活動を法人運営事業と位置づけ、経営活動と区分しています。

地域福祉の担い手としてふさわしい事業を地域住民とともに推進するため、理事会を中心として事業の健全経営や透明性の確保を図りました。

- 理事会 年5回開催
- 評議員会 年2回開催
- 監査 年1回
- 職員会議 年12回開催

II 事業部門

1. 在宅福祉・地域福祉事業

【1】地域福祉活動推進事業（町受託事業）

今年度経費 733,626 円

前年度経費 2,536,997 円

住民により近い視点から、民間としての特性を生かしつつ、きめ細かな地域福祉活動の推進を目指しました。

■福祉バス維持管理

各種福祉事業及び福祉団体に対する活動を支援

運行回数	26 回（福祉団体 10 回、行政関係 2 回、学校他 14 回）
延乗車人員	409 人

■百歳賀寿事業

百歳の高齢者に対し記念品を贈呈し、その長寿を祝い、高齢者の健康増進に努める意欲を高める

贈呈者	3名
-----	----

★地域福祉活動計画策定 新規

地域住民や関係機関・団体等と協力して地域福祉の福祉課題を解決するための目標と地域福祉の活動を示した地域福祉活動計画を策定のための組織づくりと現状把握を行った

策定委員会	2回
アンケート調査	2,873 世帯(全世帯)配布 1,187 部回収

★福祉まつり「～地域の輪～はなわ社協ふれあいフェスタ」 新規

社会福祉に対する理解と地域福祉の一層の推進を図ることを目的に開催

実行委員会	3回
開催日時	令和元年 9 月 29 日(日) 9:30～14:00
開催場所	埴町公民館・埴町営体育館
内容	式典（来場者 100 名） 展示・体験コーナー（来場者 220 名） 屋台村・福祉車両展示（来場者 130 名）

★移動・外出支援の検討事業 新規

高齢化が進む中、高齢者の“生活の足”の確保が課題となり、住民主体による福祉課題の解決に向けた公益的な取り組みとして検討

検討事業	第 1 回 今年度内容及び予定の検討会議（平成 31 年 4 月 25 日）
	第 2 回 視察研修についての検討会議（令和元年 5 月 7 日）
	第 3 回 内部研修 テーマ「住民ささえあいで移動・外出支援を創る」 （令和 2 年 3 月 11 日）
	講師：NPO 法人いわき自立生活センター法人本部課長 大山重敏氏

■法外扶助費支給事業

移動費を持たない行旅人等に対し、次の市町村までの運賃相当額となる 500 円を支給

利用人数	2人
------	----

■福祉用具等貸出事業

車椅子やテント、ニュースポーツセットを無料で貸し出すことで地域福祉の推進に貢献

(備品)

貸出品目	回数
車椅子	10回
テント	5回
テントおもり	2回
炊き出し鍋	1回
発電機	1回
プロジェクター	1回
スクリーン	1回

(ニュースポーツセット)

貸出品目	回数
カーリンコン	17回
グラウンドゴルフ	5回
スカットボール	11回
ラダーゲッター	3回
トリコキューブ	4回
ストライクナイン	1回

【2】一般募金配分金事業

今年度経費 1,229,671 円
前年度経費 1,241,726 円

埴町社会福祉協議会で取り扱った赤い羽根共同募金の一部が翌年福島県共同募金会より配分され、その配分金が財源となる事業

■ひとり暮らし高齢者交流会

交流が偏りがちなひとり暮らし高齢者の方に、様々な方との交流を促すと共に、温泉入浴やカラオケ、会食等楽しんでいただくことができました。

埴町民生児童委員協議会高齢者部会の全面的な協力を仰ぎ、実施しました。

参加者	40人		
実施日	令和元年11月15日(金)	場所	湯遊ランドはなわ(大広間)
内容	大縄暁子さん歌謡ショー		

■寝たきり高齢者介護世帯慰問事業

寝たきり高齢者等の激励と、日常的に介護を行っている家族介護者のご労苦を慰労し応援の気持ちを込めて、そのご家庭を訪問して慰問品を贈呈しました。

対象	15世帯	内容	現金 5,000円
実施日	令和元年10月		

■ひとり親世帯入進学祝品贈呈事業

ひとり親世帯の小・中学生及び高校生の入進学に際し、祝金を贈呈しました。

対象	78世帯(121人)	内容	現金 5,000円
----	------------	----	-----------

■福祉団体助成事業

町内の福祉団体や福祉事業所の活動を助成しました。

団体名	助成額
埴町老人クラブ連合会	90,000 円
埴町心身障がい児者親の会	50,000 円
埴町身体障がい者福祉会	40,000 円
埴町赤十字奉仕団	40,000 円
ウッドピアはなわ	40,000 円
ダリア工房	40,000 円
計	300,000 円

【3】歳末たすけあい配分金事業

今年度経費 647,850 円

前年度経費 730,100 円

福島県共同募金会から配分される歳末たすけあい配分金による事業

■歳末たすけあい慰問事業

新たな年を迎える時期に、ひとり暮らし・寝たきり高齢者、高齢者世帯、ひとり親世帯、障がい者及び生活困窮者等の支援を必要とする人たちが、地域で安心して暮らすことができるよう、少しでも豊かな心持ちで新年を迎えることができることを祈念して慰問品を贈りました。

対象	内容
93世帯	現金 7,000 円

【4】心配ごと相談事業（町受託事業）

今年度経費 891,028 円

前年度経費 881,231 円

相談所を定期に開催し、日常生活上の様々な悩み事や困り事の相談に応じる事業

月1回、弁護士相談日を設け、法律の専門家による対応を行いました。

	一般相談	弁護士相談
開設日時	月曜日(休日を除く)10時～15時	第2月曜日 13時～15時 (休日の際は翌週)
相談体制	相談員 2名	弁護士 1名
開設場所	埴農村勤労福祉会館小会議室(※変更の場合はあらかじめ周知)	
その他	相談料無料、秘密厳守、相談員 6名(各回 男性1名、女性1名)	
開設回数	40回	12回
相談件数	17件	37件
主な内容	財産関係 9件、借金問題 11件、債権関係 6件、介護関連 4件 貸付関係 3件	

【5】権利擁護事業（県社協受託事業）

今年度経費 362,233 円
前年度経費 367,000 円

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者のうち判断能力が不十分な方が地域において自立した生活が送れるよう、福祉サービスの利用や生活に必要なお金の出し入れ等公的な制度で支援する。

■あんしんサポート事業(日常生活自立支援事業)

判断能力が低下した利用者へのニーズに応え、福祉サービス利用手続きと日常の金銭取扱に関する支援(令和2年3月31日現在)

利用者	8人	利用回数	100回
-----	----	------	------

【6】生活援護事業

今年度経費 281,747 円
前年度経費 343,060 円

■生活福祉資金貸付事業（県社協委託事業）

低所得世帯、障害者世帯、高齢者世帯等の世帯を単位に、それぞれの世帯の状況と必要に合わせた資金（総合支援資金、福祉資金、教育支援資金、不動産担保型生活資金）の貸付けを行う事業
福島県社会福祉協議会が実施主体で、塙町社会福祉協議会が窓口を担当

新規利用	0件	継続利用	2件	利用相談	8件
------	----	------	----	------	----

■生活援護資金貸付事業

一時的に生活資金などでお困りの方を対象に、その世帯の生活の安定と助長促進を図ることを目的に資金の貸付けを行う事業

貸付限度額は 50,000 円で無利子ですが、連帯保証人が必要となり、償還は2年以内が条件

新規利用	3件	継続利用	5件	利用相談	8件
------	----	------	----	------	----

2. 地域ボランティア活動の充実・福祉教育の推進

【1】ボランティアセンター事業（町受託事業）

今年度経費 321,649 円

前年度経費 301,000 円

住民が住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを進めるために、支え合い活動をベースにしたボランティア活動を行いました。

また、ボランティアの育成や活動の相談、登録受付、活動支援、連絡調整、情報発信及び啓発活動等様々な取り組みを行いました。

■ボランティア登録

個人	19人	団体	6団体
----	-----	----	-----

■傾聴ボランティア（みみネットはなわ）

傾聴ボランティアとは、人とお話をする機会が少なかったり、話し相手が限定されがちな高齢者の話し相手となり、嘆きや悩みを「きちんと聴く」ことによって相手の心の不安を軽減し、その人なりの判断や納得を促すというものです。

「みみネットはなわ」を組織し、月に1回1時間程度の訪問活動を2人1組で行いました。

利用者	15人	利用回数	141回
-----	-----	------	------

～みみネットはなわ活動状況～

活動登録者	18人	定例会	6回(隔月開催)
-------	-----	-----	----------

傾聴ボランティア研修

実施日	令和元年8月8日(木)	場所	埴農村勤労福祉会館 小研修室
参加者	14名		
内容	ひきこもりの理解と支援 講師:特定非営利活動法人ビーンズふくしま 理事長 若月ちよ氏		

■ボランティアステップアップ研修(郡内4町村社協合同事業)

実施日	令和元年11月29日(金)	場所	埴農村勤労福祉会館 大研修室
参加者	郡内ボランティア登録者 48名 (内 埴町からの参加者 13名)		
内容	活動発表、研修、スノードーム制作 講師:ハンドメイド作家 東條真由美氏		

■サマーショートボランティアスクール(郡内4町村社協合同事業)

夏休み中の高校生を対象に、一定期間ボランティア活動を体験する場を提供し、自分たちが住む地域の課題や福祉の現状理解を促して、ボランティア活動への参加促進を狙いとする郡内4町村合同のボランティア活動体験事業。

開校式	令和元年7月29日(月)	場所	棚倉町保健福祉センター
参加者	30名(修明、学石、埴工、修明鮫川、県立石川)		
内容	事前研修 (アイスブレイク、ボランティア活動について、注意事項、施設へのプレゼント制作)		
活動期間	令和元年7月30日(火)～8月9日(金)		
活動場所	(町内施設) 埴町デイサービスセンター2名、埴保育園2名、久慈の郷1名、埴厚生病院1名	修了者	(郡全体) 全12施設 30人

■福祉教育(埴町出前講座)

福祉教育に関する町内学校からの講師派遣要請が埴町出前講座に届き、同講座からの講師派遣要請により社協職員が学校に出向き、講師を担いました。

【第1回】

対象	笹原小学校4年生	参加者	12名
実施日	令和元年6月12日(水)	場所	笹原小学校2階カーペットホール
内容	高齢者疑似体験、車椅子体験		

【第2回】

対象	笹原小学校4年生	参加者	12名
実施日	令和元年7月12日(金)	場所	笹原小学校4学年教室
内容	「ふくし」ってな～に？(ふくし、しょうがい、バリアフリー、ユニバーサルデザインについて)		

【第3回】

対象	埴工業高校1年生 1組2組	参加者	41名
実施日	令和元年12月6日(金)	場所	埴工業高等学校 体育館
内容	高齢者疑似体験、車椅子体験		

★シニア男性講座(埴の“おやじ塾”) 新規

男性ボランティア増加、ネットワーク作りのため50歳以上の男性を対象に講座を開催、今後につながる効果がありました。

【第1回】

実施日	令和元年12月20日(金)	場所	埴町公民館
参加者	8名	内容	オリエンテーション・災害時でも作れる男の料理 講師:社協職員

【第2回】

実施日	令和2年1月17日(金)	場所	埴町公民館
参加者	17名	内容	男前うどんづくり 講師:倉橋一男氏

【第3回】

実施日	令和2年2月21日(金)	場所	埴町公民館
参加者	21名	内容	男前漬物づくり 講師:安部トモ子氏

【第4回】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

★いきいき健康づくりセミナー 新規

高齢となっても健康で生きがいのある生活を送るため、地域とのつながりを持ち、自ら介護予防と健康づくりに取り組み、介護予防・健康づくりにおける人材育成と実践の場づくりを行いました。

【第1回】

実施日	令和元年 5 月 28 日(火)	場 所	埴農村勤労福祉会館 大研修室
参加者	23名	内 容	これから取り組む健康づくりについて①(講義・実技) 講師:モンゴル体育大学特任教授 菊池章人 氏

【第2回】

実施日	令和元年 6 月 18 日(火)	場 所	埴農村勤労福祉会館 大研修室
参加者	27名	内 容	これから取り組む健康づくりについて②(講義・実技) 講師:モンゴル体育大学特任教授 菊池章人 氏

【第3回】

実施日	令和元年 7 月 23 日(火)	場 所	埴農村勤労福祉会館 大研修室
参加者	27名	内 容	ニュースポーツ体験(実技) 講師:NPO 法人みんなの広場 理事長 斉藤大介 氏

【第4回】

実施日	令和元年 8 月 27 日(火)	場 所	郡山市布引高原
参加者	20名	内 容	健康ウォーキング 講師:はなわスポーツクラブ

【第5回】

実施日	令和元年 9 月 24 日(火)	場 所	埴農村勤労福祉会館 大研修室
参加者	27名	内 容	認知症サポーター養成講座 講師:社協職員

■ボランティアの活動環境整備

地域住民にとって身近な存在として機能し、ボランティアが活動しやすい環境を整え、あらゆる住民が参画できるプラットフォームの提供を行いました。

【地域サロン新規立ち上げ支援】

件 数	3地区 (常豊いきいきサロン、埴5・6区サロン、川上1・2区サロン)
-----	---------------------------------------

【サロンへの協力】

件 数	7地区 各サロン月1回支援 友遊サロン(木野反)、すまいるサロン(板庭)、若草サロン(大蕨・大畑) 植田フラワーサロン、埴5・6区サロン、川上1・2区サロン、常豊いきいきサロン
-----	--

3. 生活支援体制整備事業

今年度経費 2,518,282 円
前年度経費 420,000 円

日常生活において支援が必要な高齢者等の方々が、住み慣れた地域で生きがいをもって在宅生活が継続できるように、「介護予防」「社会参加」を重視しながら、住民の方が主体となって取り組む助け合い・支えあい活動を推進していく事業

地域の中で多様なサービスが提供できるよう、住民と一緒に考えながら、ボランティア等の担い手や地域資源の発掘、関係機関のネットワーク作りを行っていく事業

【1】生活支援コーディネーターの配置

平成30年9月より町から受託し、高齢者等の生活支援サービスの体制整備を推進するため資源開発やネットワーク構築の機能を果たすことを目的に配置をしました。

■いきがい・助け合いサミット in 大阪（研修）

開催日	令和元年9月9日(月)～9月10日(火)	場所	大阪府立国際会議場
内容	①全体シンポジウム「共生社会をつくる地域包括ケア～生活を支え合う仕組みと実践」 ②「有償(謝礼付き)ボランティア活動をどう広げるか」 ③「生活困窮の人が地域の人々とともに生きる地域をどうつくるか」 ④「人口が少ない自治体における助け合いによる生活支援に関する課題と対応策は何か」		

■生活支援コーディネーター情報交換会・研修会

開催日	令和元年10月31日(木)	場所	県南保健福祉事務所
-----	---------------	----	-----------

■協議体「笑顔つなげる会」会議・研修会

会議開催数	7回	視察研修	自治会の取り組み視察 (埼玉県川越市 霞が関北自治会)
-------	----	------	--------------------------------

【2】いきいき健康教室・地域サロン交流会（45チーム、290名参加）

町内にある、いきいき健康教室・地域サロンに呼びかけ、介護予防の講演会、地区対抗のカーリンコン大会を令和元年10月31日(木)に開催しました。いきいき健康教室・地域サロンのような居場所は地域住民の参加と協力による地域のつながりの再構築と支えあい活動を広める役割があるとともに、介護予防の拠点としての期待も高まっているため、魅力的な活動となることを目的に実施しました。

4. 福祉活動を支えるための取り組み

【1】社会福祉協議会の会員及び会費の募集

全戸加入を目標として行政区長の協力をいただきながら会費の納入とりまとめを行うなど会員の確保に努めました。（令和元年度会費対象世帯数 2,066世帯）

会費納入額	1,033,000 円
-------	-------------

【2】日本赤十字社社員及び社費の募集

国内の大規模災害や世界各地の自然災害での被災者および難民を支援するため、日赤事業の推進のため、社費募集チラシ配布、奉仕団委員の地域訪問により社費募集を実施いたしました。

社費収納額	1,608,280 円
-------	-------------

※ この内 195,720 円が埴町分区へ配分されました。

【3】共同募金運動

「じぶんの町を良くするしくみ」である赤い羽根共同募金運動への一層の理解と参加を促進するために、町民や企業に効果的な広報活動を促進し、地域福祉の促進に努めました。

■赤い羽根共同募金運動（運動期間：令和元年10月～令和2年3月）

募金実績	戸別募金	1,176,480 円
	法人募金	552,490 円
	学校募金	17,732 円
	職域募金	104,249 円
	イベント募金	18,355 円
	その他の募金	67,399 円
	計	1,936,705 円

※ この内 1,211,705 円が令和2年度、一般募金配分金事業として使われます。

■歳末たすけあい募金運動（運動期間：令和元年10月～令和元年12月）

募金実績	742,400 円
------	-----------

※ 内 647,850 円が令和元年度の歳末たすけあい配分事業として使われ、残り 94,550 円が令和2年度の一般募金配分金事業として使われます。

【4】関係福祉団体業務及び福祉団体事務局

■事務を担当する業務

社会福祉法により市町村ごとに分会がおかれている団体の業務を行いました。

福島県共同募金会 塙町共同募金委員会
日本赤十字社福島県支部 塙町分区

■事務局を担当する福祉団体

それぞれの使命を有して活動する福祉団体の事務局機能を担いながらその活動を通して地域福祉に関する課題を相互に共有し事業推進が図られるよう支援を行いました。

塙町民生児童委員協議会
塙町老人クラブ連合会
塙町赤十字奉仕団
塙町身体障がい者福祉会
塙町心身障がい児(者)親の会
塙町遺族会

5. 社会福祉協議会活動普及の取り組み

【1】広報活動

今年度経費 453,798 円

前年度経費 444,884 円

ホームページにより町内外の方に常に最新の情報が届くよう努めました。また、インスタグラムやツイッター、SNS 上でも事業を実施した様子やデイサービス慰問の様子などを掲載することで、インターネットを活用する若年層に向けても情報を発信することができました。

町内マスコミにも広告を掲載し、介護、福祉の相談の窓口として社協の存在をPRしました。

広報誌の発行	はなわ社協だよりこころ 2回（6月、9月）
広告掲載	町内マスコミ2社

【2】地域福祉充実のためのネットワークの構築

行政機関関連部署及び福祉関係機関・団体との密なる連携を図り、福祉ネットワークの整備に努めました。

☆ 県内市町村社協(災害ボランティアセンター)支援にかかる職員の派遣

「福島県・市町村社会福祉協議会における災害時相互支援に関する協定書」に基づき、台風19号の被害が大きかった市町村社協の災害ボランティアセンター支援に職員を派遣しました。

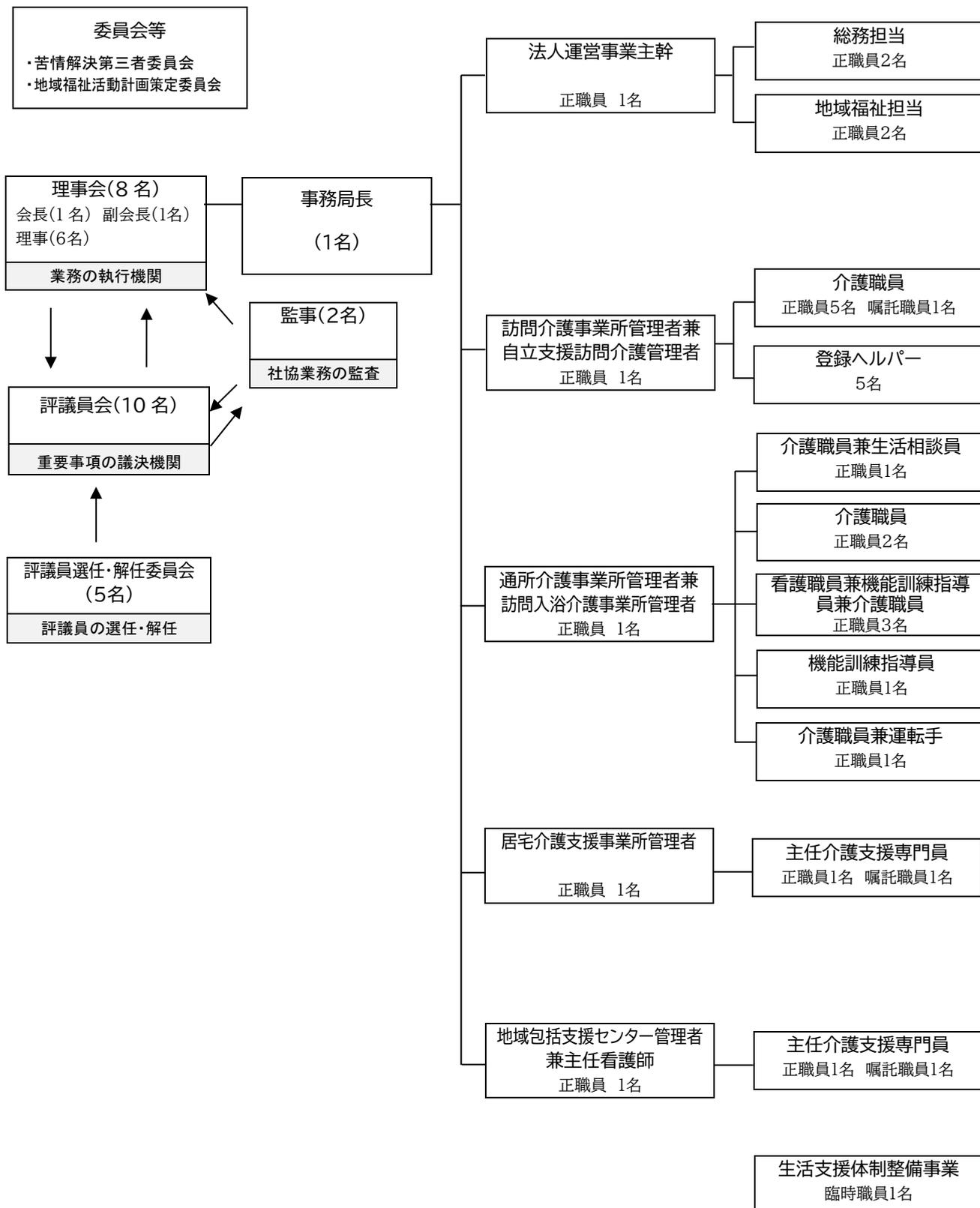
派遣先	人数	延べ日数
郡山市社会福祉協議会	事務局長、職員 3 名	10 日
須賀川市社会福祉協議会	職員 1 名	2 日

6. 職員体制及び職員研修

【1】職員体制

組織図

社会福祉法人埴町社会福祉協議会組織図（令和2年3月31日現在）



【2】職場内職員研修

事務事業の実践能力の向上、専門性の向上、組織人としての成長のため職場内研修を実施し職員の資質向上に努めました。

日 時	令和2年3月26日(木) 午後5時15分～午後6時15分		
場 所	埴町デイサービスセンター	参加者	職員20名
内 容	①講義「社会福祉協議会とは」(講師:事務局主幹) ②グループワーク「各事業所の強みと弱みについて」 ③発表		

【3】役職員研修・専門研修

今年度経費 366,651円
前年度経費 258,766円

福島県社会福祉協議会、さまざまな団体等が実施する研修会や講習会等へ役員、職員を積極的に派遣し、他団体からの参加者との交流や情報交換等を通じて、地域福祉活動の推進に努めました。

また、利用者に、より質の高いサービスを提供できるよう、個々が専門性を高めるための研修に参加しました。また、全国社会福祉協議会主催の経営基盤強化セミナーに職員を派遣し、他社協との情報交換等を通じて適切な経営ができるよう努めました。

- ① 福島県社会福祉大会 ※ 会場(須賀川アリーナ)が台風19号被災のため中止
- ② 福島県福祉・介護職員のつどい

日 時	令和元年5月20日(月)
場 所	ビッグパレットふくしま(福島県郡山市)
内 容	つどい、交流会、県知事から激励の言葉、先輩職員からのメッセージ
参加者	職員2名 出席

③ その他の研修会

内 容	出席者	日 時・場 所
生活福祉資金担当職員研修	職員1名	令和元年5月27日,12月3日 福島県社会福祉協議会
福祉職員キャリアパス中堅職員研修	職員3名	令和元年6月7月8月(3日間) 福島県社会福祉協議会
介護予防ケアマネジメント実務者研修	職員3名	令和元年6月7日 けんしん郡山文化センター
介護保険事業者集団指導	管理者1名	令和元年6月14日 たまかわ文化体育館
社会福祉施設ボランティア担当研修	職員1名	令和元年6月25日 ビッグパレットふくしま
コミュニティソーシャル研修(基礎編)	職員3名	令和元年6月26日 福島県社会福祉協議会
認知症キャラバンメイト養成研修	職員2名	令和元年6月28日 福島県男女共生センター

市町村社会福祉協議会職員研修(新任職員編)	職員1名	令和元年7月9日～10日 福島県男女共生センター
社会福祉施設等感染症予防対策研修	職員1名	令和元年7月10日 県南保健福祉事務所
訪問介護テーマ別技術向上研修	職員1名	令和元年7月16日 ビッグパレットふくしま
コミュニティソーシャル研修(実践編)	職員1名	令和元年7月8月9月(3日間) ビッグパレットふくしま
県南地域介護支援専門員協会障がい分野合同研修	職員3名	令和元年7月26日 JA夢みなみセレモニープラザ
市町村社会福祉協議会職員研修(管理職員編)	職員3名	令和元年8月1日～2日 福島県社会福祉協議会
福島県精神障害者アウトリーチ推進事業研修	職員1名	令和元年8月21日 郡山市
難病疾患支援者研修	職員2名	令和元年8月23日 サンフレッシュ白河
災害ボランティアセンター運営研修	職員1名	令和元年9月3日 福島県社会福祉協議会
生活困窮者自立支援制度自立支援機関等職員研修	職員1名	令和元年9月3日 福島県男女共生センター
福島県共同募金会各市町村共同募金委員会事務担当者研修	職員1名	令和元年9月4日 福島県社会福祉協議会
福祉職員キャリアパスチームリーダー研修	職員5名	令和元年9月(2日間) 福島県社会福祉協議会
「地域福祉活動計画策定」「社協・生活支援活動強化方針」チェックリスト学習会	職員2名	令和元年9月12日 福島県社会福祉協議会
地域支援関係者認知症対応力向上研修	職員3名	令和元年10月3日 白河市
苦情受付担当者研修	職員1名	令和元年10月4日 ユラックス熱海
市町村社会福祉協議会経営・財務研修	職員3名	令和元年10月25日 福島県社会福祉協議会
高齢者の自立支援に向けた介護事業所向け研修	職員2名	令和元年11月1日 けんしん郡山文化センター
認知症初期集中支援チーム研修	職員1名	令和元年11月1日 サンフレッシュ白河
介護職員特例処遇改善加算説明会	事務局長	令和元年11月15日 ユラックス熱海
養護者による高齢者虐待対応スキル向上研修	職員1名	令和元年11月15日 須賀川市
県南地域在宅医療介護連携事業住民向けセミナー	職員1名	令和元年11月25日 矢吹町保健センター
福島県介護支援専門員専門研修Ⅱ(更新研修)	職員1名	令和元年10月12月(5日間) ビッグパレットふくしま
県南圏域現任認定調査員研修	職員3名	令和元年12月3日 矢吹町文化ホール
安全運転管理者等講習	職員2名	令和元年12月13日 ベルヴィ郡山
県南地域相談支援専門員スキルアップ研修	職員3名	令和2年1月17日 白河市立図書館
在宅医療・介護連携市町村担当者研修	職員1名	令和2年1月30日 ビッグパレットふくしま

Ⅲ 経営部門

経営改善とサービスの質の向上に努めるべく、専門研修への参加以外にも内部で研修会を開催し、社会福祉協議会だからこぞできる福祉・介護サービスについて学びました。

また、より良い事業所運営を目指して加算の取得に積極的に取り組み、利用者の方に快適なサービスを提供できるよう努めてまいりました。

1. 介護サービス事業（介護保険法）

介護を必要とする状態になっても安心して生活が送れるよう、介護を社会全体で支えることを目的として平成12年4月からスタートした介護保険制度、その要介護者と家族の安定した生活を支えるための介護サービスを提供する事業所の運営を行いました。

【1】訪問介護事業所（ホームヘルプサービス）

	資金収支差額	経費
今年度	△6,965,313 円	35,151,178 円
前年度	△20,006,607 円	42,197,132 円

毎年、冬場になると施設利用や入院等で利用者数が減少傾向にありましたが、今年度は暖冬の影響もあり、利用者が大幅に減少することなくサービスを提供し続けることができました。また、福祉有償運送事業の利用料を値上げしたこと、新たに特定事業所加算Ⅰを取得したことにより、前年度に比べ売り上げが増加となりました。

■訪問介護事業(ホームヘルプサービス)

訪問介護員(ホームヘルパー)が利用者(要介護者)宅を訪問し、オムツ交換、入浴介助、清拭等の身体介護や調理、清掃等の家事の援助を行います。

【利用者】

(実人数)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	34	31	38	35	33	33	40	37	37	38	41	42
総合※	19	17	20	20	20	19	19	19	19	18	16	16
計	53	48	58	55	53	52	59	56	56	56	57	58
合計	介護		439 <前年度 406>				一カ月平均		介護		36.5 <前年度 33.8>	
	総合		222 <前年度 238>						総合		18.5 <前年度 19.8>	
	計		661 <前年度 644>						計		55.0 <前年度 53.7>	

【訪問回数】

(回)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	461	495	525	551	479	480	525	469	499	517	518	549
総合※	109	104	114	135	111	105	107	101	101	93	94	103
計	570	599	639	686	534	585	632	570	600	610	612	652
合計	介護		6,068 <前年度 5,130>				一カ月平均		介護		505.6 <前年度 427.5>	
	総合		1,277 <前年度 1,519>						総合		106.4 <前年度 126.6>	
	計		7,345 <前年度 6,646>						計		612.0 <前年度 554.1>	

※総合とは、市町村が中心となって要支援者等の方に対する効果的かつ効率的な支援を行う「総合事業」のことです。

■福祉有償運送事業

介護保険、自立支援の認定を受けていて、交通手段に困る高齢者の病院等への車両による送迎を行っています。

【利用者】

(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
12	8	14	14	9	10	16	11	12	7	16	14
合計			143 <前年度 100>			1カ月平均			11.9 <前年度 8.3>		

【運行回数】

(回)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
31	42	71	64	61	62	79	56	60	65	92	93
合計			776 <前年度 982>			1カ月平均			64.6 <前年度 81.8>		

■軽度生活援助事業(受託事業:埜町軽度生活援助事業実施要綱)

在宅で生活する高齢者を対象に、軽易な日常生活上の援助を実施します。具体的には、調理、掃除、買物及び相談・助言等が主な内容となります。

【利用者】

0 <前年度 0>

○人材確保

ホームヘルパー人材不足の中、介護職員人材確保のため登録ヘルパー募集を継続して行い、登録ヘルパー1名を採用しました。

【2】通所介護事業所

	資金収支差額	経費
今年度	2,853,163 円	60,550,306 円
前年度	△7,540,187 円	65,361,224 円

一日の利用定員を25名から30名に増員し、一人でも多くの方に定期利用して頂けるようにしました。

また、利用者に対して個別機能訓練計画書を作成、その計画に基づき機能訓練を実施し効果や実施方法を評価する機能訓練加算Ⅰを取得したことで、利用者の在宅生活を継続していくために重要な心身機能の維持・向上に努めました。

更に、季節感のあるおやつや食事の提供ができるように昼食代を値上げし、行事食など季節を感じられる食事やおよつの提供を行い、利用者より好評を得ました。

これらにより、今年度は黒字化を果たすことができました。

■通所介護事業(デイサービス事業)

入浴、運動(機能訓練)を行う等のサービスを提供することで、より長く自宅で生活できるように支援します。利用者の気分転換や身体機能及び衛生面での維持を図り、家族のレスパイトケア※も目指しています。

※「レスパイトケア」とは介護が必要な高齢者等がいる家族へのさまざまな支援。家族が介護から開放される時間をつくり、心身疲労や共倒れ等を防止することが目的。多くデイサービスやショートステイ等のサービスを指す。

【利用者】

(実人数)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
介護	50	49	54	52	50	56	58	58	57	61	57	60		
総合※	25	27	29	28	28	28	26	28	29	29	29	33		
計	75	76	83	80	78	84	84	86	86	90	86	93		
合計		介護	662					一カ月平均	介護	55.2				
			<前年度 665>							<前年度 55.4>				
		総合	339						総合	28.2				
			<前年度 327>							<前年度 27.3>				
		計	1,001						計	83.4				
			<前年度 992>							<前年度 82.7>				

【利用日数】

(延べ回数)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
介護	340	320	407	394	354	345	385	387	376	377	353	399		
総合※	106	121	144	146	129	133	133	137	132	134	144	157		
計	446	441	551	540	483	478	518	524	508	511	497	556		
合計		介護	4,437					一カ月平均	介護	369.7				
			<前年度 4,424>							<前年度 368.7>				
		総合	1,616						総合	134.6				
			<前年度 1,516>							<前年度 126.3>				
		計	6,053						計	504.3				
			<前年度 5,940>							<前年度 495.0>				

※総合とは、市町村が中心となって要支援者等の方に対する効果的かつ効率的な支援を行う「総合事業」のことです。

○ボランティアの受け入れ

1年を通して数多くのボランティアにご協力いただきました。入浴介助のお手伝いやお話し相手をはじめ紙芝居や歌等をご披露いただき、利用者をお大いに楽しませていただきました。

わろてんか一座の皆さん、女性ボランティア、はなわ読み聞かせ出前塾、めだか保育室、コーラスはなわ、森令子歌謡教室、サマーショートボランティアの皆さん、合計34回、延べ147人を数えました。

【3】訪問入浴介護事業所

	資金収支差額	経費
今年度	△3,404,867 円	11,199,749 円
前年度	△5,481,449 円	18,074,999 円

中山間部のサービスの希薄な地域へのサービスの提供、医療依存度が高い利用者へのサービスの提供に努めましたが、介護度が高い利用者が多いため入院等によりサービス終了するケースが多く稼働率が低迷しました。

そのような中、今年度から介護福祉士資格を有する職員の割合で取得できるサービス提供体制強化加算を取得し、売り上げの維持に努めるとともに、質の高いサービスを提供することに努めました。

■訪問入浴介護事業(入浴車)

移動入浴車で、浴槽を利用者宅に持ち込み入浴介助を行いません。バイタルチェック等も行い、利用者の体調管理には十分な注意を払ったうえでサービスを提供しています。

【利用者】

(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
8	8	7	6	5	7	8	8	5	4	6	7
合計			79 <前年度 103>				一カ月平均		6.5 <前年度 8.6>		

【利用回数】

(回)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
29	29	27	28	27	38	35	28	24	14	20	32
合計			331 <前年度 346>				1カ月平均		27.5 <前年度 28.8>		

■障がい者訪問入浴サービス事業(町受託事業)

自宅で家族や介護者による入浴が困難な障がい者を対象とする、移動入浴車による訪問入浴サービスです。

【利用者】

(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
合計			36 <前年度 27>				一カ月平均		3.0 <前年度 2.3>		

【利用回数】

(回)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
23	21	23	24	23	23	25	27	21	22	22	23
合計			277 <前年度 245>				1カ月平均		23.0 <前年度 20.4>		

【4】居宅介護支援事業所

	資金収支差額	経費
今年度	△449,377円	18,859,787円
前年度	1,067,617円	17,803,303円

利用者のサービス選択を重視した偏りのないサービス計画を作成し、利用者及び介護者や家族を支援することを実施しました。内容に応じた加算を確実に取るように努力し、売り上げの維持に努めました。

訪問調査事業については、認定期間が3年に伸びたことにより件数が減少しました。

■居宅介護支援事業

介護サービス利用にあたり、介護支援専門員(ケアマネージャー)が、本人や家族の要望、生活の状況、利用できるサービスの上限等を勘案して「何を」目的として、「どのサービス」を「どれ位」使うか、「いつ」使うか、「どこのサービス」を使うかについて「介護サービス計画」を作成します。また、在宅生活向上のアドバイスも行っています。

【利用者】

(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
98	96	101	103	101	101	100	106	98	98	97	101	
合計		1,200 <前年度 1,190>					1カ月平均		100.0 <前年度 99.2>			

■訪問調査事業(町受託事業)

要介護者の心身の状況や日常生活の状況等について聴き取り調査を行い、介護判定に必要な認定調査票の作成を行っています。

【対象者】 ※()は内数で他市町村分

(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
12(1)	8	13	10	8	7(1)	7	4	10	5(1)	10	7	
合計		101(3) <前年度 104(4)>					1カ月平均		8.4 <前年度 8.7>			

【5】地域包括支援センター（町受託事業）

今年度経費 19,803,930 円
前年度経費 19,964,726 円

地域包括支援センターは、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関です。具体的には、要介護認定申請の代行やケアプランの作成、受けられるサービスの紹介を行います。また、支援を必要としない人に対しては、自立した生活を続けることを目的とする地域サロンを行っています。

■総合相談支援

高齢者が健やかに暮らすためのあらゆる相談に対応します。必要な場合は、包括センターの業務に移行して包括的な支援につなげ、また、サービス利用等の後も継続的なフォローを行っています。

内容	件数	内容	件数
介護保険サービスの利用に関すること	54	住宅改修・福祉用具に関すること	10
在宅での生活・在宅介護に関すること	25	関係機関との連絡調整	12
施設入所に関すること	5	実態把握	54
医療に関する相談	4	計	164

■介護予防支援事業

要支援1または2と認定された人は、介護予防に関するサービスを利用することができます。適切なサービスが利用できるよう、ケアプラン（介護予防サービス計画）作成や、サービス事業所との連絡・調整などを行っています。

【介護予防支援取扱件数】

(件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
包括	52	55	59	58	57	57	53	53	52	56	55	55
委託分	7	6	5	6	8	7	8	7	8	7	8	7
計	59	61	64	64	65	64	61	60	60	63	63	62
合計	包括		662 <前年度 633>					包括		55.2 <前年度 64.1>		
	委託分		84 <前年度 123>					委託分		7.0 <前年度 10.3>		
	計		746 <前年度 756>					計		62.2 <前年度 63.0>		

■介護予防・日常生活支援総合事業(総合事業)

要支援1または2と認定された人で、町が主体となって行う介護予防事業を総合事業（通所介護事業と訪問介護事業）として利用する人のケアプラン作成等の取扱件数を示しています。

【総合事業取扱件数】

(件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
包括	40	39	41	40	45	48	51	53	52	51	47	49
委託分	2	2	2	3	0	1	1	0	0	2	1	2
計	42	41	43	43	45	49	52	53	52	53	48	51
合計	包括		556 <前年度 447>					包括		46.3 <前年度 37.3>		
	委託分		16 <前年度 23>					委託分		1.3 <前年度 1.9>		
	計		572 <前年度 470>					計		47.6 <前年度 39.2>		

■訪問調査事業(認定調査)

要介護認定者等の心身の状況や日常生活の状況等について聴き取り調査を行い、介護判定に必要な認定調査票の作成を行っています。

【対象者】

(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
4	4	4	4	5	0	1	0	3	3	2	2	
合計		32 <前年度 32 >					1カ月平均		2.7 <前年度 2.7 >			

■地域介護予防活動支援事業

地域住民が主体となって行う介護予防活動の支援やそれをサポートするボランティアを育成しています。10の地域でサロンとして展開することができましたが、町(高齢者支援係)が主催する「いきいき健康教室」と併せて、町内の全地域での開催を目指しています。

また、町が65歳以上の高齢者の参加を募り開催する介護予防教室にケアマネジメントや教室運営において協力しました。

【介護予防支援取扱件数】

(件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
サロン	9	8	13	13	10	13	19	14	10	13	14	0
いきいき健康教室	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0
介護予防教室	0	1	2	3	0	1	2	2	1	0	0	0
合計	サロン		136 <前年度 108 >					サロン		11.3 <前年度 9.0 >		
	いきいき健康教室		10 <前年度 11 >					いきいき健康教室		0.8 <前年度 0.9 >		
	介護予防教室		12 <前年度 17 >					介護予防教室		1.0 <前年度 1.4 >		

■地域ケア会議

ケアマネージャーや介護事業所及び医療機関関係者が参集した中で、要援護高齢者に対するより良い支援を検討します。また、関係機関の情報を共有することで地域のネットワークを構築し、適切な介護サービスの提供に努めています。

また、個別ケースの支援検討が緊急に必要な場合に個別ケア会議を行いました。

包括ケア会議	11回 ※3月なし	取扱件数	227件	個別ケア会議	2回
--------	--------------	------	------	--------	----

■認知症サポーター養成講座

認知症を理解し、認知症の人やその家族を見守り応援するのが、認知症サポーターです。

地域の皆さんに認知症に対する理解を深めていただくため、要請に応じて認知症サポーター養成講座を開催しました。

養成講座	2回	延べ	850人参加
------	----	----	--------

○広報活動

町内のマスコミ2社に、高齢者に関するあらゆる相談窓口である包括センターのPR記事を定期的に掲載し、それにより相談件数も増えました。

○サロン立ち上げ

埜3・4区、稲沢地区の2か所で新たにサロンを立ち上げ、高齢者が地域で自立した生活を続けることができるよう支援しました。

2. 障がい福祉サービス事業（障害者総合支援法）

障害者総合支援法に基づき、心身に障がいがある方や特定の疾患のある方が、地域のなかで自分らしく生活を続けていけるよう、介護サービスを提供する事業所の運営を行いました。

【1】自立支援訪問介護事業所

	資金収支差額	経費
今年度	4,484,498 円	7,634,812 円
前年度	△1,927,898 円	13,887,012 円

障がい者が自立した日常生活、社会生活を営むために必要な障害福祉サービスのうち、居宅介護（ホームヘルプ）サービスを提供しています。

令和元年度は、特定事業所加算Ⅰを取得したことで前年度に比べ売り上げが増加、黒字転換を果たすことができました。

■訪問介護事業（ホームヘルプサービス）

訪問介護員（ホームヘルパー）が利用者宅を訪問して、オムツ交換、入浴介助及び清拭等の身体介護や買物、調理、洗濯及び掃除等の家事援助を行います。

【利用者】 （実人数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
6	7	7	7	6	6	7	7	9	6	8	7
合計			83 <前年度 96>				一カ月平均		6.9 <前年度 8.0>		

【利用回数】 （回）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
78	80	83	104	54	140	140	165	203	126	135	149
合計			1,457 <前年度 1,190>				1カ月平均		121.4 <前年度 99.2>		

■移動支援事業（受託事業：埜町地域生活支援事業）

単独で外出をすることが困難な障がい者や障がい児の外出の際に、ヘルパーが付き添い移動の支援を行うサービスです。

【利用者】 （実人数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2
合計			29 <前年度 29>				一カ月平均		2.4 <前年度 2.4>		

【利用回数】 （回）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
8	18	16	20	16	16	12	10	8	10	6	6
合計			146 <前年度 336>				1カ月平均		12.1 <前年度 28.0>		

■育児支援家庭訪問事業(受託事業:埜町育児支援家庭訪問事業)

養育支援の必要がある家庭を訪問し、育児指導や簡単な家事の援助、養育相談及び指導等を行います。

【利用者】 (実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2
合計			21 <前年度 11>				一カ月平均		1.8 <前年度 0.9>		

【利用回数】 (回)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3	3	3	10	8	10	5	8	6	7	6	7
合計			76 <前年度 34>				1カ月平均		6.3 <前年度 2.8>		

■障害支援区分認定調査

障害福祉サービス給付申請者の心身の状態や生活動作の状況等について調査を行い、障害支援区分の判定に必要な認定調査票を作成します。

市町村からの要請に応じて調査を行います。

埜町分	4件 <前年度 1件>
他市町村分	5件 <前年度 1件>
合計	9件 <前年度 2件>